第３言語分科会

方言の現在からみた日本語の行方（陣内　正敬）..... 117
日本における罵倒語に関する一考察..... 119
——日本と他国、人を罵る知恵の違いについて（徐　曙）
「（時間数詞）ぶりにＶ」構文に関する一考察..... 120
——「初めて」との共起関係を中心に（兪　暁明）
「途中」の意味構造について（山岡　政紀　　李　奇楠）..... 123
情報構造と添加の本質（徐　愛紅）..... 125
有情主体に付く「ニハ」の分類と構文（黒崎　佐仁子）..... 127
文脈におけるハズダの機能について（程　焱）..... 130

（目次へ）

方言の現在から見た日本語の行方

日本・関西学院大学　　陣内　正敬

現在日本では一種の方言ブームが起きている。関西方言が全国の若者に人気があることはもちろん、最近では首都圏の若者がメールのやり取りにおいて各地の方言を織り交ぜ、コミュニケーションの素材として利用している（図１）。また、マスコミもこの種のことを頻繁に報道しているし、テレビ番組でも方言をネタにしたものが人気を博している。

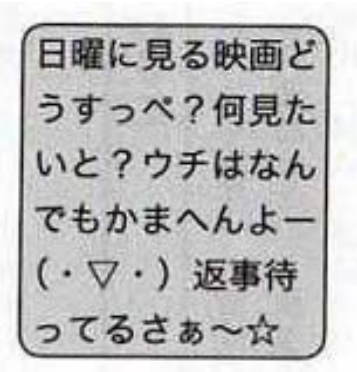

図 1

なぜ現在の日本語にこのような現象が起きているのか。それを解き明かすには日本人のコミュニケーション姿勢の変容を考える必要があり、そこに方言の果している機能の変化を見ることが重要である。そしてこのことを、日本社会の変化の中で位置づけると、さらにそのからくりが明瞭になってくるのである。

2001 年から 2003 年にかけて、関西方言の全国的広がりを視野において、全国 6 都市（東京、名古屋、大阪、広島、高知、福岡）、計 1,275 名を対象に言語意識と言語使用の実態調査を行なった。そのひとつの結果として、関西言葉と東京言葉に対する好悪感には、若年層で高く年輩層で低いという明瞭な年層差のあることがわかった。（図２、図３）

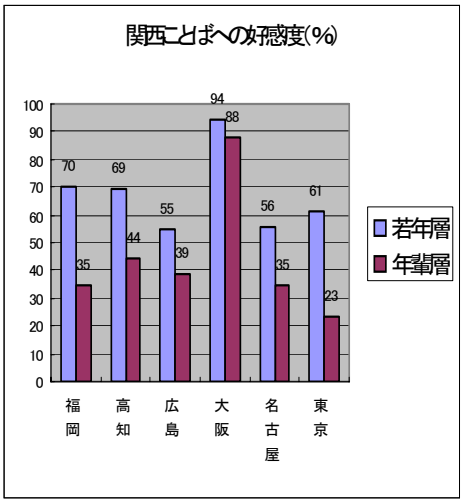

図 2

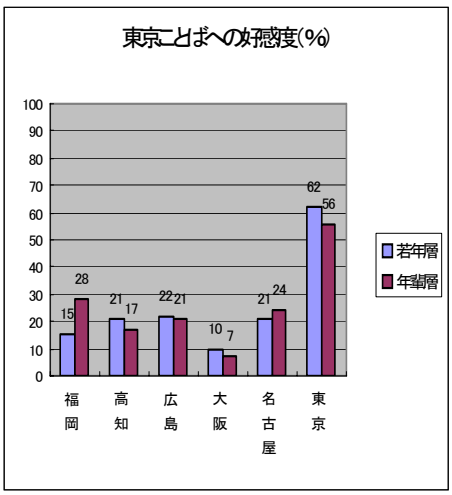

図 3

この調査では、「関西言葉の使用願望」や「コミュニケーション心理」などについても聞いている。これを東京調査でさらに細かく見てみると以下のようになり（図４）、両者は同じような世代差を描く結果となった。

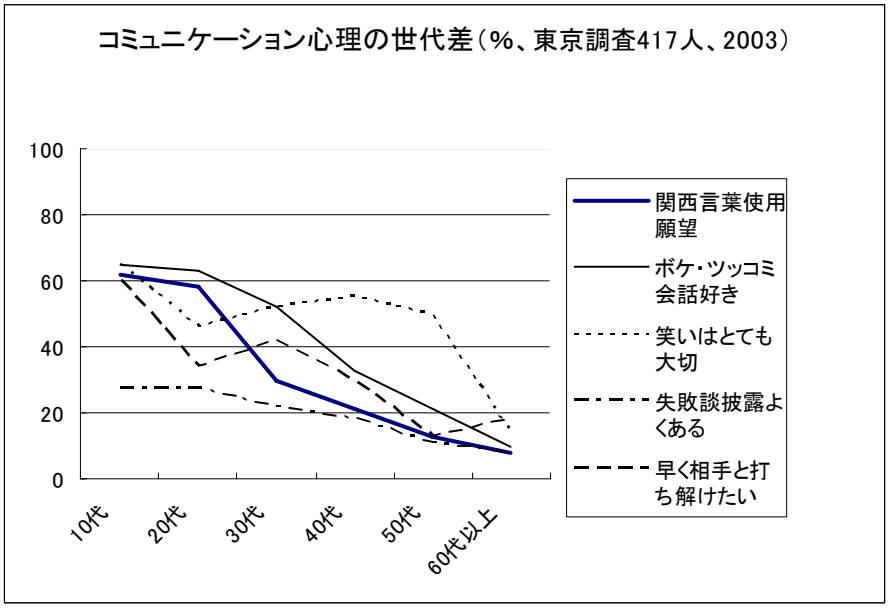

図 4

この背景には、標準（規範）から非標準（脱規範）への価値観の転換、あるいは、正しさや型重視から楽しさや個性重視へという人間関係観の変化があり、そしてその土台としてそれを可能にしているポストモダン的な日本社会があるものと考えられる。

下の図は概略ではあるが、このことを図式化したものである（図 5）。

	1870 頃			1970 頃	
	江戸	明治	大正	昭和	昭和　平成
（日本社会）	プレモダン		モダン		ポストモダン
（言語文化）	多方言・多文化（地域的・階層的）	標準語化・単一文化化			非標準語・脱規範化（世代的・職業的）
（話者心理）		正しさ・型志向			楽しさ・個性志向

図 5.　日本社会の変容と言語文化・話者心理

（参考文献）

陣内正敬 2005「関西方言の広がりと日本語のポストモダン」陣内・友定（編）2005『関西方言の広がりとコミュニケーションの行方』和泉書院

陣内正敬 2005「リンクする「方言研究」」（2005 年春季大会シンポジウム報告）『日本語の研究』2－1 日本語学会

陣内正敬 2006「方言の年齢差－若者を中心に－」『日本語学』25－1 明治書院

日本における罵倒語に関する一考察

——日本と他国、人を罵る知恵の違いについて

同済大学　　徐　曙

言語学の研究において、「比較罵倒学」などという研究は、あまり見られないようだが、その理由の一つは、たぶん対象そのものがダーティー（汚い）だからであろう。もう一つの理由は、罵倒の底にこめられた怒りの感情は、人類に共通のものであり、比較してみる必要もないと、多くの人が思い込んでいることだろう。

しかし、言葉そのものがいかにダーティーであっても、人間の生活の中にはダーティーなものの占める範囲がかなり広いことを、われわれは忘れてはならない。罵倒語は、他人の前ではあまり口にすべきではないが、かといって、われわれの知的生活や日常生活の中で、罵倒が果たしている役割には目を瞑るべきではない。罵りは、人間の生活の重要な一部分なのである。罵倒語を用いることによって、われわれは自分の感情に噴出口を与える。そしてまた、ほかの方法によっては表現不可能なことを表現することができる。

それだけではない。罵倒語というのは、一民族の風習や言語そのものと同じぐらいに、その民族の文化と深い関係がある。ある言語では、性行為が暴力の隠喩と見なされ、したがって罵倒にはセックス関係用語が多用される。ほかの言語では、そのような比喩関係がないため、用いられない。そこに違いが生じる。

国家と国家を比べるとき、もっともＧＮＰが高いのはどこか、どの国民がもっとも多くノーベル賞を獲得したか、などが尺度になる。だが、それとは別に、日本人の使う日本語が、世界の主要言語の中で、一つだけ非常に目立っていることがある。それは罵倒語だ。

日本語の罵倒語は、ほかの言語に比べて、きわめて少ない。とくに宗教、セックス、身体の部分にもとづく罵倒語が皆無に等しい。身体の機能、愚鈍さ、動物性などに関係した言葉になると、そうでもない。いや、もっと際立って異なる点が一つある。ほとんどの言語が他人を（あるいは自分を）罵るときには、特定の言葉や成句を用いているのに、日本語だけは違う。無作法な、せっかちな、あるいは文章を縮めた言い回しによって、罵倒の意味を表す。

なぜ、日本語だけがそうなのだろうか。日本人は、セックスや宗教に対して中国人や西欧人よりずっと寛容だったためだろうか？もしくは、まったく逆に、抑止的すぎるために、たとえ罵倒語としても、口にするのをはばかるのだろうか？中国人が怒れば、罵倒用語を連発する。そんなとき、日本人は、怒りを内攻させ、唇を噛んで、ひそかにつぎの反撃のチャンスを待つ場合が多いようだ。

つまり罵倒語は、芸術や生活上の風習や理想と同様に、立派な文化の一部分なのである。

「（時間数詞）ぶりにＶ」構文に関する一考察

――「初めて」との共起関係を中心に

北京語言大学　　俞　暁明

０．はじめに

現代日本語における接尾辞「ぶり」の意味用法について、多くの国語辞書ではこれを二大別して取扱っている。つまり、「体言・動詞の連用形＋ぶり」の形で、「･･･の様子・状態・やり方などを表す」場合と、「時間を表す語＋ぶり」の形で、「時日の経過の程度を表す」場合である。本発表は、後者の「時間を表す語＋ぶり」を考察の対象にし、もっと具体的に言えば、「時間を表す数詞（以下、時間数詞と略す）＋ぶりに＋Ｖ」という構文に焦点をあて、「～ぶりに」とその後続動詞との構文上のつながりや意味解釈・成立条件、さらに、「初めて」との共起関係などについて検討していきたい。

１．問題の提起

(1)着工後，十年ぶりに完成した。（文化庁『「ことば」シリーズ 13』p71）

(2)中国男子サッカーチームが 44 年ぶりに初めてサッカー2002 年ワールド・カップの入場券を獲得しました。(『日語知識』2002－6，p39)

ふつうの国語辞書における「ぶり」の意味解釈に従えば、例(1)も(2)も、その文としての的確性・妥当性が問題視される。つまり、「十年ぶりに」と「完成した」、「44 年ぶりに」と「初めて」、がそれぞれ意味的に矛盾しているような関係にあると考えられる。

２．用例調査

２－１．調査の対象・方法

２－２．調査結果（表１）

検　索　語	用例数（総件数）			
	朝日新聞	読売新聞	北海道新聞	合　計
ぶりに完成	59	28	15	102
ぶりに初めて	52	48	25	125

(3)八戸市田面木の国道 104 号四車線化が、工事着工以来、十年ぶりに完成した。(朝日)

(4)･･･。自殺したのは、遼寧省瀋陽市在住で、52 年ぶりに初めて帰国したという田桂英さん。(朝日新聞 1991／8／25)

３．日本語母語話者に対するアンケート（表２）

番号	例　　文	回　答　者												
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	着工後，十年ぶりに完成した。（引用例）	×	×	△	△	×	×	×	?	△	×	○	×	×
2	彼は 10 数年ぶりに初めて国に帰った。	×	×	△	○	×	×	×	×	×	?	○	×	×
3	遭難者は 18 時間ぶりに初めて救出された。	×	×	△	○	×	×	×	×	△	×	×	×	△
4	彼は 40 年ぶりに初めて免許を取った。	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5	平岡さんは十年ほど前から、仲間の消息をたどり始めた。そして今年六月、四十四年ぶりに初めて同期会ができた。（朝日）	?	×	○	○	△	×	×	×	○	×	×	×	○
6	中国男子サッカーチームが 44 年ぶりに初めてサッカー2002 年ワールド・カップの入場券を獲得しました。（日語知識より）	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×
7	一行は成田空港行きの飛行機に乗り換え、同日夜、北朝鮮への帰還事業が始まってから三十八年ぶりに初めて故国の土を踏む。（読売）	×	×	○	○	○	×	○	?	○	?	○	×	○

４．「（時間数詞）ぶりに」構文の検討

４－１．「（時間数詞）ぶりに」と後続動詞

○継続動詞：行く、歌う、泳ぐ、書く、作る、乗る、走る、降る、読む、戻る、など

○瞬間動詞：生まれる、終る、完成する、消える、決まる、救出する、結成する、触る、知る、到着する、届く、発見する、始まる、見つかる、分かる、など

４－２．「（時間数詞）ぶりに」の意味解釈

①従来の基本的な意味：

ａ．「再び同じ状態が現われる」（同一状態の反復）

(5)三日ぶりにふろに入った。／一か月ぶりに休暇が取れた。（引用例）

ｂ．「再び元の状態に戻る」（「初期状態」への回復）

(6)遭難者は 18 時間ぶりに救出された。／一週間ぶりに意識を回復した。（引用例）

②新たな派生的な意味：

ｃ．「ある事が実現するまでにそれだけの時間の経過が必要である」（「状態の転換・生起」）

(7)「義理土産」というのがあの頃もあったと 42 年ぶりに知った。（朝日 2003／8／10）

(1)着工後，十年ぶりに完成した。（再掲）

４－３．「（時間数詞）ぶりに完成」構文（ｃ文）の原理

①「ぶりに」は「長い時間が経ってやっと」の含意を持つ。

②「完成」およびこの類の動詞は「一回性」を表す瞬間動詞である。

③「ぶりに完成」の表す意味：「無（ゼロ）」の状態から「有」の状態への転換、事柄成立。

５.「(時間数詞）ぶりに初めてＶ」の構文

５－１.「ぶりに」と「初めて」との共起

この構文における「ぶりに」は、単なる時間の長さを強調し、即ち「長い時間が経ってやっと」の意味に用いられるので、「初めて」との共起の許容度がかなり高いと言えよう。

５－２.「ぶりに初めて」の後続動詞と表す意味

「ぶりに初めて」に後続する動詞は、一部の継続動詞を除いて、殆ど瞬間動詞である。

〇瞬間動詞：「･･･～経って（～後）初めて･･･」

〇継続動詞：「～の時間的間隔を経て再び･･･」（繰り返し）

５－３.「(時間数詞）ぶりに初めてＶ」構文のパターン

５－４.「～ぶりにＶ」と「～ぶりに初めてＶ」

６．おわりに

〇「(時間数詞）ぶりに」の意味の二分化

〇「ぶりに」と「初めて」との共起条件

〇使用分布――新聞記事に偏っている

〇 違和感・許容度に個人差がある

＜参考文献＞（略）

「途中」の意味構造について

北京大学　　山岡　政紀・李　奇楠

「途中」は、自立的な意味を持たない非自立的・依存的な語で、必ず何らかの名詞または動詞を制限して副詞句を作る。形式上は被制限詞が表現されていない場合でも、意味的には常に何らかの被制限詞が、必ず文脈上に存在する。

その意味用法は、大きく分けて空間的用法と時間的用法とに大別され、被制限詞の種類によって、そのどちらの意味を持つかが決まるが、被制限詞が移動動作を表す場合のみ、空間的用法にも時間的用法にもどちらにもなり得る。

（１）被制限詞が場所名詞句の場合→空間的用法

「途中」は二つの漢字からなる言葉で、「途」は道、「中」はある空間の内部を指し、文字通りの意味は、「道の間（あいだ）」ということである。したがって、その基本的意味は、視覚で捉えられる空間的用法である。この場合、被制限詞は常に場所名詞句である。

Ｎ（＝場所）の途中＋格助詞　　例「斜面の途中に」

a. 男は石段の途中へ向けて、手にしていた拳銃を撃った。（金閣寺）

b. 「あすこの坂の途中に、建ったばかりの家があるでしょう。」（雪国）

c. 山の途中で待ち伏せていて（日本戦後名詩百家集）

（２）被制限詞が移動動作の場合→空間的用法か、時間的用法

被制限詞が動詞「歩く」「進む」「通勤する」や名詞「歩行」「通過」「通学」などのような移動動作を表す場合、「途中」を含む副詞句を承ける主動詞が状態動詞の場合は空間的用法、動作動詞の場合は時間的用法となる。「途中」のあとの格助詞を省略して、接続助詞的に用いることができるのは時間的用法のみ。

なお、形式上、被制限詞が表現されていない用例では、文脈からそれを補い、＜　＞で示しておいた。

（２Ａ）主動詞が状態動詞の場合→空間的用法

Ｎ（＝移動動作）の途中＋格助詞＋状態動詞　例「通学の途中に郵便局がある」

Ｖ（＝移動動作）する途中＋格助詞＋状態動詞　例「国道６号は県境を越える途中で曲がっている」

a.　気つけ薬を飲み終ると、藍子は長い廊下を裏手の病棟へと走ってゆく。＜病棟へと走ってゆく＞途中にぶ厚い黒ずんだ扉があって、ノックをすると、看護婦が鍵束をがちゃつかせながら扉をあけてくれた。（楡家の人びと）

b.　「古靴の恩があるからな。途中で坂があるんだ。そこは大変だった。お父さんが引いて、坂本さんが押すのさ。そしたら、＜お父さんが引いて、坂本さんが押す＞途中に変な爺さんがいて、《夫婦して力を合わせりゃ、あんたらは今に必ず金持ちになる》って言うのさ。……」（太郎物語　高校編）

c.　私たちは、少しぎごちなさそうに腕を組んだまま、例の小さな木橋を渡った。それからその流れの反対の側に沿って、サナトリウムへの道に這入って行った。その途中にずっと続いている野薔薇の生墻は、既にその白い小さな花をことごとく失った跡だった。（美しい村）

d.　スペインで製作されたマドンナの図は旅の途中で三枚の板に割れてしまった。(マッテオ・リッチ伝)

e.　仏間へゆく途中に、平吉の兄が寝ていた。(雁の寺)

（２Ｂ）主動詞が動作動詞の場合→時間的用法

Ｎ（＝移動動作）の途中（＋格助詞）＋動作動詞　例「通学の途中、寄り道をした」

Ｖ（＝移動動作）する途中（＋格助詞）＋動作動詞　例「歩道橋を渡る途中、くしゃみをした」

a.「そうなんだ。……このあいだの土曜の夜もね、ジムから帰る途中、電車で眠り込んでね。結局、乗りすごしちゃったよ。よっぽど疲れてるんだね。……でも、日曜は走りもせず完全に休んだから、もう大丈夫だよ」(一瞬の夏)

b.銀座の表通りを＜歩いている＞途中から、西銀座の方へ曲る。(あした来る人)

c.それに、克平は歩き出すと、めったに自分のペースも変えなければ、＜歩行の＞途中で立ち停まることもない。(あした来る人)

d.いつも僕が会社へ通勤の途中、可部行の電車のなかでよく見かける中年すぎの神父さんがいた。(黒い雨)

e.ある日、予備校へ向かう途中、アジア系の女性に呼び止められた。(五体不満足)

f.それが焼けていないことは、僕が避難の途中に寄って見届けている。(黒い雨)

（３）被制限詞が非移動継続動作の場合→時間的用法

被制限詞が移動以外の継続動作を表している場合、もはや視覚で捉えられない純粋な時間的用法となる。つまり、ある動作・事態が進行している最中に別の動作・事態が行われることを意味する。この用法の使用頻度は高い。「途中」のあとの格助詞を省略して、接続助詞的に用いることもできる。

Ｎ（＝非移動継続動作）の途中（＋格助詞）　例「食事の途中、母に叱られた」

Ｖ（＝非移動継続動作）する途中（＋格助詞）　例「話し合っている途中に電話が入った」

a.克平と八千代の口論は十分ほどで終った。克平が＜口論の＞途中で口をつぐんでしまったからである。(あした来る人)

b.「その帰りに公園で『瞼の母』を見たが、＜見ている＞途中で俺あいやあになっちゃってね。見ていられなかったよ」(野火)

c.その授業は、やや怖い先生だったので＜授業の＞途中入室するのがためらわれ、下のベンチで授業終了を待つことにした。(五体不満足)

d.丁度あの時が御帰省の途中だったんでしょう。(破戒)

e.僕はいくつか話題をみつけて彼女に話しかけてみたが、話はいつも＜話している＞途中で途切してしまった。(ノルウェイの森)

参考文献

大堀壽夫(2004)「文法化の広がりと問題点」『月刊言語』4月号　26-33

影山太郎(2002)「動詞意味論を超えて」『月刊言語』11月号　22－29

徐昌華(2004)「『場合』に見られた文法化について」『日本語言文化研究』第五輯　356-362

山岡政紀(2000)『日本語の述語と文機能』くろしお出版

Hopper,P.J.and Traugott,E.C.(1993)　*Grammaticalization.* Cambridge University Press

情報構造と添加の本質

中山大学　　徐　愛紅

接続詞の分野において、これまで逆接型や順接型は活発な研究は進められているのに対して、添加型は議論の的とされることがわりあい少ないようである。添加型接続詞は一般的に、一つの事柄を述べ、それに加えて次の事柄を述べる際に用いるものである。前後文の関係は逆接型や順接型に比べると論理的結合関係が薄いが、一見単純なものほど精密な整理も難しい。ひけひろし(1985)や浜田麻里(1995)などの研究においては、一部の形式の個々の用法及び類義語間の異同をある程度記述されたものの、大きく添加という枠組みにおけるこれらの形式の意味機能分担が明らかにされておらず、機能体系の把握は難しい感がある。

そこで本稿は浜田麻里(1995)の研究を手がかりに、添加型接続詞の中で連接内容が発話の内部に含められ、話し手と聞き手の相互交渉を必要としない文脈で用いられるものだけを取り上げ、検討を試みる。この分類基準に基づくと、浜田麻里（1995）で論じられた「そして」のほかにも、「しかも」や「それに」、「そのうえ」なども同タイプのものと言えよう。これらの接続詞は話し手または書き手の一方的な叙述を行う文脈に用いられるところにも共通性がある。

時枝文法では、接続詞を文または語に対する話し手の立場を表現する語として辞に分類している。以下の例のように、文の接続にどんな表現を用いるかは、話者の事態に対する捉え方または情報伝達のあり方によって決まるものである。

(1) この店は安い。{そして／しかも／そのうえ／それに}、美味しい。

そこで本稿は、情報構造の視点から添加の本質を探ってみたい。

これらの形式に関して、接続単位と接続スコープ、または、希望や意志、命令などのモダリティを含む文が接続しうるか否かといった構文上の特徴が既に指摘されている。

本稿ではこれらの表現が用いられる際に、話者の判断の傾きが前提となっているかどうということによって、まず二分類することにする。ここで言う判断の傾きとは、前後文の内容が話者の一定した評価や判断に基づくということである。すると、「しかも」や「その上」、「それに」は判断の傾きがあるものとし、「そして」は判断の傾きがないものとなる。このことから、判断の傾きがあるものは、評価や判断として相反する事柄間の添加には使えないことになる。

(2)　彼は成績がいい。{そして／＊しかも／＊そのうえ／？それに} 貧乏だ。

それに、話者の評価や判断が加わっていない等位語句や事実描写文の接続も不可となる。

(3)　今度は、湖の並木道に連れて行った。{そして／＊しかも／＊その上／＊それに}、昔のように二人で自転車に乗った。

(4)　筆記用具{＊しかも／＊そのうえ／＊それに／そして}受験票を忘れないように。

また、前後件の情報構造にも違いが見られる。

「その上」は、情報の重点が前件に置かれ、前件だけで既に発話意図が伝わるものの、判断や評価の補強としてさらに後件が付け加わるということになる。内容の添加によって程度の加算が示される。

(5) ごちそうになり、そのうえお土産まで頂戴してすみません。

(6)　サンヒョクとユジンのデートはすべてが裏目に出た。足を運ぶ劇場はすべて満員だったのでドライブに行くことにすると、今度は渋滞にはまってしまったのだ。その上、少し車を止めておいただけで駐車違反のキップを切られる羽目になるとは、本当に何ひとつうまくいかなかった。

(7)　上海の水は全く飲めるものではない、その上、黄色い。

一方、「しかも」のほうは、前件だけでは発話意図が十分に伝わらないため、さらに後件を追加するということになる。前後件がひとまとまりで話者の伝えたい情報となる。性質上の関係から前後件にはいくつかのパターンが分けられ、また、どちらにより主張のウエートが置かれるかという点においては「そのうえ」と逆となる。

(8)　彼は軍人で、しかも立派な医者だった。

(9) 彼は日本新記録、しかもそれまでの記録を大きく上回る記録を立てた。

(10)　しかし、サンヒョクが越えなければならない山は、ミニョンではなく自分の母親だった。母親であるパク・チョンは、ユジンを嫁として受け入れることを拒んでいた。しかも、婚約パーティの日のことを思うと、どうしてもユジンが許せなかった。

一方、前後件の内容を対等に扱い、単純に必要情報の足算に用いられるものに「それに」が挙げられる。「それに」は結論の理由や根拠などの累加に多用される。

(11)「マクドナルドのサービスは最低、それにバーガーもまずい」との理由でペンタゴン爆破予告。

(12)　これは、幕府全体の体制が公認した文化だと思うんです。学校へ行くことはいいことだ。各藩は藩校を持つべきだし、幕府は幕府で自分の学校を持つ。それに読書もいいことだとされます。

ところで、「添加」の意味合いが最も薄いものは「そして」である。「そして」は事実関係を一定の順に従って述べ並べていく場合に使われることが多く、「並列」と「継起」が基本的な機能とされる。添加とは語用的な意味になるであろう。特に情報加算の意図もなく単に物事の異なる側面を提示する場合には、「そして」が適当である。

(13)　文章にはその人の本質が現れます。

あなたの日記を見てあなたを見つけてくれる人は必ずいます。{そして／＊それに／＊しかも／＊そのうえ}、あなたを待っている人を見つけるのもまたあなたなのです。

情報をどのように組み立てて発信するのか、それは話者の発話意図次第である。情報構造から添加の本質を探ってみると、「そして」「それに」「そのうえ」「しかも」はそれぞれ、擬似的な添加、等位的な添加、補強的な添加、補完的な添加と規定できるかと思われる。この性質に基づけば、接続詞の使用と文脈ムードの間にも傾向性があるかと予想が立てられ、そこから運用論上の特徴も見出されるであろう。

主要参考文献：

浜田麻里(1995)「ソシテとソレデとソレカラ－添加の接続詞－」『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版

ひけひろし(1996)「接続詞のはなし(2)」『教育国語』NO2,22　教育科学研究会 むぎ書房

有情主体に付く「ニハ」の分類と構文

清華大学　　黒崎　佐仁子

１．はじめに

本研究では、複合助詞「ニハ」を用いた構文のうち、名詞が有情主体であり、更に「動作の相手」や「動作・状態の対象」を除外した「ニハ」文に注目し、日本語教育への応用を目標とした分類と分析を行っている。

２．「ニハ」構文の分類

「青空文庫」より著作権が存続している作品の中から 17 作品を選び、「ニハ」文を収集した。

A.所有を表す文

（１）実はトムトムじいさん（ニハ)、ソントムという双子の兄がいた。(へ)

（２）かつさん（ニハ）辛い過去があった。(み)

次のような文も所有を表す文として分類できる。

（３）ところが組織の管理者は満足かも知れないが、使っている側（ニハ）これでは不満が残る。(青)

所有を表す「ニハ」文は、有情主体が物質的な事物や、抽象的な観念・事柄を持っている、または受け入れているという状態を表す。

B.自発を表す文

自発に関しては、次のように定義されている。

> 自発は「自然とそうなる」という意味を持ち、目の前に現れた出来事をそのまま伝える場合などに使います。『初級を教える人のための日本語ハンドブック』(P.84～P.87)

（４）口に息を吹き込むその時、しっかりと張った肩と胸とが大きく上下する様子が、僕（ニハ）はっきりと見える。（ロ）

（５）園芸という言葉から想いうかべることは、例えば、バラを育てるとかいうことで、ぼく（ニハ）ちょっと、縁遠いことのように思われたからだった。(み)

有情主体が意識して行う行為ではなく、自然にそのように感じることを表す動詞も、自発文の一つとして分類できる。

（６）どこかで、こちらに向かってカメラのストロボが焚かれたような気が、君（ニハ）した。（ロ）

C.対応能力を表す文

（７）私（ニハ)、フィルムが入っていることは分かったのだが、それが撮影済みなのか未撮影なのかが分からなかった。(雨)

ただし、同じ能力を表す文でも「ニハ」が不自然になる場合がある。

（８）花子（ニハ/ハ）太郎のミミズがはったような字も読める。

（９）花子（?ニハ/ハ）三ヶ国語も読める。

「ニハ」文は、ある限られた特殊な状況に対応できるという能力を表すのに対し、「ハ」

文は恒常的に続いていく知的、身体的能力を表す。（８）は、「太郎のミミズのはったような字」という特殊な対象物に、花子ガ「読む」という対応が可能だということを示している。これに対し、（９）は、花子の知的能力を示す文である。この違いは、「分かる」と「知る」の違いによっても明らかになる。

（10）a.すぐに彼（ニハ）裏の事情が分かった。 b.すぐに彼（*ニハ）裏の事情を知った。

「知る」は「分かる」とは異なり、対応能力ではなく「知識を身に付ける」という恒常的な知的能力を表すため、対応能力を表示する「ニハ」文では「知る」は用いることができない。

D.感情を表す文

（11）そうではなくて、わたし（ニハ）君が、何と言うか、不思議なのだ。（ロ）

感情形容詞は、対象に「ガ」が付き、「ニハ」文が自然になる。しかし、対象が「ヲ」となる感情動詞では「ニハ」は不自然になる。

（12）a.太郎（ニハ/ハ）別れが悲しい。 b.太郎（*ニハ/ハ）別れを悲しんだ。

これは、「ヲ」を用いることで、述語が有情主体が意志行動と捉えられるからである。ただし、以下のことも言える。

①感情を表す動詞でも、「ヲ」で対象を示さない場合には「ニハ」文が自然となる。

（13）太郎（ニハ/ハ）花子の様子がイライラした。

②「ニ」が重複する場合「ニハ」が不自然になる。

（13）’太郎（*ニハ/ハ）花子の様子にイライラした。

③「好きだ」「嫌いだ」は、「ニハ」文が不自然になる。

（14）太郎（*ニハ/ハ）花子が好きだ/嫌いだ。

④「～たい」「～ほしい」は「ニハ」文が許容される。。

（15）太郎（ニハ/ハ）水が飲みたかった。

E.限定的な認識を表す文

限定的な認識を表す「ニハ」文は、「ニハ」が付加された名詞を削除しても文として成り立つ。

（16）この問いかけは（有希ニハ）あまりにも的はずれで実体がなく、まるで空を切るような感覚だ。（十）

（17）あうんの呼吸は（等質の社会の構成員ニハ）居心地のよい慰安であっても、よそ者からすれば無言の排除にほかならない。（青）

これらは、一般化できる普遍的な捉え方ではなく、「「ニハ」の付加されている有情主体の考えにおいては」という限定が付けられた捉え方、認識の仕方をしている。

３.「ニハ」構文の共通点

「ニハ」文の分類と典型的な例を以下に挙げる。

A.所有を表す文	太郎ニハ兄がいる。
B.自発を表す文	太郎ニハ鳥の声が聞こえる。
C.対応能力を表す文	太郎ニハ花子の汚い字が読める。
D.感情を表す文	太郎ニハ誕生日が待ち遠しい。
E.限定的な認識を表す文	太郎ニハ花子は女神だ。

B.C.は、一時的あるいは特定の場面での能力を表している。その能力は状態として表現されており、有情主体の意志によって引き起こされた行為としては捉えられない。D.も感情という主体の意志が関係しない状態を表す。E.は、ある状態があり、それを有情主体が俯瞰的に捉え、有情主体の目に写った状態として限定し、表現する文であるため、意志によって何かを引き起こしているという表現ではない。A.に関しては、言うまでもなく状態を表すものである。

以上をまとめると、「ニハ」構文は、有情主体の意志に関わりなく生じる、または生じている状態を述語に取るのだと言うことができる。

４.「ニハ」文の構造

A.B.C.D. は、いずれも「ニハ」を「ハ」に置き換えることが可能である。更にそれと同時に連体修飾節に含まれると、「ニ」でも不自然ではなくなる。

A　a.太郎（ニハ/ハ）兄がいる。　b.太郎ニ兄がいる（コト）
B　a.太郎（ニハ/ハ）鳥の声が聞こえる。　b.太郎ニ鳥の声が聞こえる（コト）
C　a.太郎（ニハ/ハ）花子の汚い字が読める。b.太郎ニ花子の汚い字が読める（コト）
D. a.太郎（ニハ/ハ）誕生日が待ち遠しい。　b.太郎ニ誕生日が待ち遠しい（コト）
E. a.太郎（ニハ/*ハ）花子は女神だ。　b.太郎ニ花子は女神だ（と感じるコト）

「ニハ」文は、格助詞「ニ」に「ハ」が付いた形であるのと同時に、「ニ」がなくとも文全体の意味を大きくは変えない構文である。「ニ」には、「存在場所を表す用法」がある。この「場」を抽象的に捉え、「太郎」という有情主体を場とすると、述部の表す状態が、「太郎」という場で存在していると理解することができる。これに対し、「ハ」を用いると、「場」という理解がなくなり、「太郎」という主体の説明になる。E.も、「名詞+ニハ」に対応する「と感じられる」が明示されていないだけであると考えると、他とほぼ同じ構造であると考えることができる。

５．まとめと今後の課題

本稿では、有情主体に「ニハ」が付いた「ニハ」文を５分類し、有情主体に「場所」を表す「ニ」を付加することによって、有情主体を「場」として捉え、述部の表す状態が、有情主体という「場」で起きているとする状態文であるという見解を示した。

参考文献

１．青木伶子（1988)「車は急には止まれない - 「は」助詞のはたらき」『国語国文』57 中央図書出版社
２．グループ・ジャマーシィ（1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
３．佐伯哲夫（1989)「動詞性述語と形容詞性述語」『講座日本語と日本語教育　第４巻日本語の文法・文体（上)』明治書院 p.117～p.142
４．鈴木英夫（2003)「明治の表現 - 格助詞「に」を中心に」『日本語学』22
５．砂川有里子（1987)「複合助詞について」『日本語教育』62 日本語教育学会
６．益岡隆志・田窪行則（1992)『基礎日本語文法 - 改訂版 - 』くろしお出版
７．松岡弘他（2000)『初級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク

文脈におけるハズダの機能について

早稲田大学大学院　　程　焱

１．はじめに

「はずだ」（以下、ハズダと記す）は、一般的に「前提（P）から推論の結果当然こう（Q）なる」（寺村 1984）ということを表す判断のモダリティ形式とされ、その意味・用法に関して多くの先行研究がなされている。しかし、日本語教育の現場では、ハズダと「べきだ」、「にちがいない」など他の判断のモダリティ形式との混同が多く見られ、習得しにくいものの一つになっている。

本稿では、これまでの先行研究を踏まえた上で、談話資料（テレビドラマ 10 本のシナリオ）の中で、ハズダが現れる場面を分析し、その文脈におけるハズダの機能を明らかにする。そして、談話資料とその中国語訳をデータベースに、それぞれの機能に対応する中国語の表現も考察していく。

２．文脈におけるハズダの機能

寺村（1984）は、ハズダの意味・用法について、「P（前提）→（推論）→Q（結論）」のように分析している。しかし、実際の会話において、判断の根拠となる前件が言語化されないことが多く、本稿の用例収集資料においても、結論のみ述べられた例が少なくない。一方、森田（1980）は、ハズダの「意味・用法」を「(1)条件からの当然の帰結として予想する場合」「(2)条件からの当然の帰結が現状と食い違っている場合」「(3)条件の真相を知って現状が当然の結果であったと悟る場合」の三つに分けている。さらに太田（2004）は、ハズダの文脈を「Ⅰ現実の状態が未確認」「Ⅱ現実と認識が一致しない」「Ⅲ現実と認識が一致する」の三つに分け、ハズダの機能を分析している。

本稿では、先行研究に基づき、とくに、森田（1980）、太田（2004）の説を踏まえて、「Ⅰ現実の状態が未確認」「Ⅱ現実と認識が一致しない」といった文脈におけるハズダの機能について考察を試みる。用例収集資料から得られたハズダの用例を文脈から分類した結果、次のような 6 種類の機能が観察できた。

ハズダの機能
- Ⅰ「現実の状態が未確認」文脈
  - Ⅰ-1 確信表明
  - Ⅰ-2 確認要請
  - Ⅰ-3 断定回避
- Ⅱ「現実と認識が一致しない」文脈
  - Ⅱ-1 食い違いの明示⇒不審表明
  - Ⅱ-2 反実仮想⇒後悔・非難の表明
  - Ⅱ-3 事実や現実の強調⇒気づかせるように要求

Ⅰ-1 確信表明

表現主体が現実の状態が未確認のなかで、根拠をもって「そうなるのが当然だ」と自分の認識に確信をもって表明するタイプである。「確信表明」の機能が使われる場合、後接の文が「指示・命令表現」や「依頼表現」などの「行動展開表現」になり、相手に行動を促すものが多い。ハズダの文は、後接文の「行動展開表現」の根拠や理由となっていると考えられる。

（1）捜査員「弾丸は真下警部の体を貫通していた。必ず現場に残っているはずだ。弾丸

および弾痕の発見を最優先にあたれ！」　（踊 10）
【共起しやすい表現】必ず／きっと～ハズだ。（後接文〈行動展開表現〉）
【対応する中国語】「应该」「会」「一定」「绝对」

Ⅰ-2 確認要請

現実の状態が未確認の中、表現主体が自ら確認のできない相手の認識状況について、相手に確認を要請するタイプである。このタイプのハズダは「お分かり／ご存知のはずだ」と定型になっているものが多いが、非定型のものもある。

（2）和久「……警官殺し……それがおれと何の関係あるんだ」
島津「三年前、八王子署にいた時、一度彼を取調べたことがあるはずだ」　（踊 2）
【共起しやすい表現】「お分かり／ご存知のハズダ」「（あなたは）～ハズだ／ハズだろう」
【対応する中国語】「应该」

Ⅰ-3 断定回避

現実の状態が未確認の段階で、表現主体が確信のある自らの認識を述べる際、断定を保留するタイプである。待遇的に目上の聞き手に対して使われることが多い。

（3）元「……？内藤キャプテン、まだ入ってないはずですけど」と、辺りを見回す。（G3）
【共起しやすい表現】（どうかなあ。でも）、～ハズよ／～ハズだと思うが
【対応する中国語】「（我想）应该」

Ⅱ-1 食い違いの明示⇒不満表明

既知となった現実の状態が自分の認識と一致しない場合、表現主体がハズダを使って、現実と認識状況との食い違いを相手に明示するタイプである。その食い違いを明示することによって、相手に対して現状への不満の念を表明する。

（4）楷　「経営側には従業員が病気にならないように配慮する義務がある。それに、病気を理由に辞めさせることは出来ないはずでしょう！」　（サ 6）
【共起しやすい表現】本来／本来だったら／本当は～ハズなのに／ハズだろう
【対応する中国語】「应该」「本来」「原本」「本应」「本该」

Ⅱ-2 反実仮想⇒後悔・非難の表明

表現主体が、もし一定の条件があれば逆の事態が成立した、いわゆる反実仮想表現を通じて、現実の状態に対して後悔や非難の念を表明する。現実の状態が自らの行為によって引き起こされた場合は後悔、相手の行為によってもたらされた場合は相手への非難の気持ちを伴うのが一般的である。

（5）貴子：何も言わなくても気づいてあげられたはずなのに……。　（愛 1）
【共起しやすい表現】（仮定表現）、～たハズだが／ハズなのに
【対応する中国語】「应该」「本应」「本该」

Ⅱ-3 事実や現実の強調⇒気づかせるように要求

認識通りの現実にはなっているものの、相手が現実の状態に気づかったり、またはそういった現実の状態に反する状況が存在したりする場合、表現主体がハズダを使って、事実や眼前の現実を強調し、相手に対してそういった現実に気づかせるように要求する。「～と言ったはずだ」の形で使われることが多い。

（6）司馬「部長、お言葉ですが、この件に関しては、僕は一任されてるはずですが」（振8）

【共起しやすい表現】～と言ったハズだ／～ハズだが／～ハズなのに

【対応する中国語】「明明」「应该」「本来」

３．まとめと今後の課題

以上、談話の場面に現れるハズダの機能を分析し、その文脈の意味から「確信表明」「確認要請」「断定回避」「食い違いの明示⇒不満表明」「反実仮想⇒後悔・非難の表明」「事実や現実の強調⇒気づかせるように要求」の六つの機能が存在していると、各機能について考察を試みた。また、それぞれの機能の文法上の共起表現や、対応する中国語の表現も考察してみた。

今後は、用例収集の範囲を広めハズダの機能をより精密に観察するとともに、学習レベルに応じた指導順序や導入方法について考えていきたい。

【参考文献】

太田陽子（2004）「ハズダの機能と文脈化」『2004年度日本語教育学会秋季大会予稿集』　日本語教育学会

蒲谷　宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』　大修館書店

寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』　くろしお出版

森田良行（1980）『基礎日本語2』　角川書店

【用例出典】（　）内は本稿における略号

（振）『振り返れば奴がいる』／（サ）『サイコドクター』／（愛）『愛という名のもとに』／（G）『GOOD LUCK！』／（踊）『踊る大捜査線』／（H）『HERO』／（森）『眠れる森』／（ビュ）『ビューティフルライフ』／（夜）『アフリカの夜』／（歳）『29歳のクリスマス』